

だい い とくみょうおう きぎょうぞう  
大威徳明王騎牛像

(五大明王像〔五大堂安置〕のうち)

重要文化財  
木造 彩色  
像高 181.9cm  
平安時代 10世紀  
京都・醍醐寺蔵



上醍醐五大堂の五大明王像は、醍醐天皇御願により、延喜7年(907)聖宝によって薬師堂の薬師如来及び両脇侍像(現霊宝館安置)とともに制作が始められ、聖宝の没後、弟子の観賢によって延喜13年(913)までに完成したと伝える。五大堂は幾度も焼失しており、現在、創建当初の像は、本像1軀のみである。

大威徳明王は、六面六臂六足で各面に三眼あり、水牛に跨がる忿怒尊である。主に怨敵調伏・戦勝祈願の修法の本尊として礼拝される。手の形勢や左第一足を牛の背にかけてすわる形など、東寺講堂五大明王像中の大威徳明王像とほぼ形を同じくする。

本像の大きな特徴は、大ぶりで誇張された目鼻立ちである。特に飛び出たような大きな眼の表現は、醍醐寺霊宝館安置の上醍醐中院伝来とされる五大明王像と共通する。こうした顔立ちは、焼損前の東寺食堂四天王像(899~909年)にも見られる。また、上醍醐薬師三尊の脇侍像に顔の輪郭やプロポーションの類似点が見られ、本像が上醍醐草創期(さかのぼ)に遡る、極めて重要な遺品であることが作風から確認できる。

特別展「国宝 醍醐寺のすべて」では、近世の再興像を含む五大明王が5尊そろって上醍醐から降りて出陳されるが、このうちの3軀は、慶長13年(1608)に豊臣秀頼を施主として、仏師康正らが制作した、17世紀初頭の重要作例であることも付記しておく。

岩井 共二(当館学芸部教育室長)

展示品の  
みどころ

ほくと ほう さ だん よう い き  
北斗法作壇用意記

(醍醐寺文書聖教128函18号)

国宝  
紙本墨書  
縦17.3cm 横16.5cm  
鎌倉時代 嘉元3年(1305)  
京都・醍醐寺蔵



醍醐寺に伝わる聖教のひとつ。聖教とは、密教修法や灌頂など密教儀礼の典拠、手順・所作・道具、先例などを記した書物全般を指している。

北斗法は、北斗信仰に基づき、北斗曼荼羅を本尊とした除災の修法。北斗信仰では、生まれ年の十二支を七星に配し、それが個人の一生を司る属星・本命星とされた。

本来、密教に北斗七星に関する信仰は存在していなかったが、中国において道教の北斗信仰の影響を受けた『北斗延命経』『梵天火羅九曜』等が成立した。日本では、平安時代に陰陽道の星辰信仰が隆盛したこともあって、10世紀頃に北斗法が整えられていった。

北斗法では、主に病など個人の災厄に際して行われ、北斗七星・本命星・本命宿・本命宮・当年星などを供養しその災いを除く。本書には彩色の大壇図が描かれており、これを見ると、幡を7旒、幣を7本立て、銀銭・茶・菓子各3杯、飯を12杯用意して、飯のうち中央の1つを北極星(北辰)に、7つは北斗七星それぞれに、4つを当年星・本命星・生月宮・本命宿にあてている。表紙に「仙洞北斗御修法壇行事」とあることから、上皇のために行った北斗法の用意記である。

展示期間 7/19~8/17

斎木 涼子(当館学芸部研究員)

◆特別展「国宝 醍醐寺のすべて - 密教のほとけと聖教 -」にて展示

開館日時(7月~9月)

■開館時間

午前9時30分~午後5時  
・特別展「国宝 醍醐寺のすべて」会期中は午後6時まで  
・なら燈花会の期間(8/5~14)と毎週金曜日は午後7時まで  
※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休館日

毎週月曜日(7月21日、8月11日、9月15日は開館し、7月22日(火)、9月16日(火)は休館)  
※9月8日よりなら仏像館は休館し、青銅器館は無料になります。

観覧料金 名品展(なら仏像館・青銅器館)

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

観覧料金

特別展「国宝 醍醐寺のすべて」

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,500円	1,000円	500円
前売	1,300円	800円	300円
団体	1,200円	700円	300円

※団体は20名以上です。  
※前売券の販売は7月18日(金)まで  
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。  
※「来場期間限定」前売券(7月中にご来場限定、一般1,100円)、「醍醐寺とゆかりの深い寺院拝観者優待」(特定のお寺の拝観券提示で100円引)など、お得な割引があります。詳しくは展覧会公式ホームページで。  
醍醐寺のすべて展 公式ホームページ <http://daigoji.exhn.jp>



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

